

今月のトピックス

- Ⅰ 手足口病が流行しています。
- Ⅰ 風しんの流行が続いています。
- Ⅰ 夏休みの海外旅行先における感染症に注意が必要です。

全数把握の対象

【7 月期に報告された全数把握疾患】

細菌性赤痢	1 件	劇症溶血性レンサ球菌感染症	1 件
腸管出血性大腸菌感染症	6 件	後天性免疫不全症候群 (HIV 感染症を含む)	2 件
腸チフス	1 件	侵襲性インフルエンザ菌感染症	1 件
デング熱	1 件	梅毒	1 件
レジオネラ症	4 件	バンコマイシン耐性腸球菌感染症	1 件
アメーバ赤痢	3 件	風しん	40 件
急性脳炎	1 件		

- 1 細菌性赤痢: Shigella sonnei (D 群) の報告が 1 件ありました。渡航先(インド)での感染が推定されています。
- 2 腸管出血性大腸菌感染症: 6 件 (O157 VT1VT2 4 件、O157 H7VT1VT2 1 件、O157 VT2 1 件) の報告がありました。このうち、1 件では同居家族内発症がありましたが、感染原因は調査中です。本症は例年これからの季節に多く報告されています。家庭内での感染予防法は手洗いが重要です。さらに、下痢症状がある人は専用のタオルを使うなど、他の人と使うタオルを別にしましょう。トイレは常に清潔に掃除し、ドアノブ・水洗レバー・電気のスイッチなど手の触れるところは、特に念入りにきれいにしましょう。
啓発用チラシ「[O157 に注意しましょう](#)」(衛生研究所)
- 3 腸チフス: 1 件の報告がありました。渡航先(ネパール)での感染が推定されています。
- 4 デング熱: 1 件の報告がありました。渡航先(インドネシア)での感染が推定されています。近年、日本では年間発生数が増加傾向にありますが、すべて日本国外での感染で、タイ、インド、インドネシア、フィリピン、ミャンマー、ラオス、カンボジアなどでの感染が多く報告されています。

海外での感染症予防情報掲載ホームページ

これから海外旅行に出かける人が増えることが予想され、感染症に注意が必要です。

[海外に渡航される方へ](#) (保健所)

[夏休みに海外へ渡航される皆さまへ](#) (厚生労働省検疫所)

[夏休み期間中における海外での感染症予防について](#) (厚生労働省)

- 5 レジオネラ症: 肺炎型 4 件の報告がありました。感染原因等詳細については現在調査中です。
- 6 アメーバ赤痢: 腸管アメーバ症 3 件の報告があり、すべて国内での感染が推定されています。2 件は経口感染が、残る 1 件は性的接触による感染が推定されています。
- 7 急性脳炎: 学童の報告が 1 件ありました。症状は発熱(38 以上)、痙攣と意識障害で、病原体検索中です。
- 8 劇症型溶血性レンサ球菌感染症: 40 歳代男性の報告が 1 件ありました。血清型は G 群 ([国内の統計](#)では、本症の起因菌では A 群の次に G 群が多く報告されています。) です。感染原因感染経路不明です。
- 9 後天性免疫不全症候群 (HIV 感染症を含む): 2 件の無症状病原体保有者の報告がありました。1 件は国内での同性間性的接触による感染が推定されており、残るもう 1 件は感染経路感染地域等不明でした。
- 10 侵襲性インフルエンザ菌感染症: 70 歳代男性 1 件 (ワクチン接種歴不明) の報告がありました。症状は発熱、意識障害、ショックで、血液よりインフルエンザ菌が検出されています。莢膜型は e 型でした。
- 11 梅毒: 1 件の早期頭症 期 (梅毒性乾癬) の報告があり、国内での性的接触による感染が推定されています。
- 12 バンコマイシン耐性腸球菌感染症: 1 件の VanA 型 (*Enterococcus faecium*) の報告がありました。中心静脈カテーテルからの感染が推定されています。

13 風しん:40件(男性27件、女性13件)の報告がありました。うち37件で予防接種歴が無いか確認できませんでした。風しんは現在流行が続いています。先天性風しん症候群予防のため、妊娠を予定・希望している女性は予防接種を受けましょう。予防接種の助成が実施されています。

[横浜市感染症臨時情報](#)(衛生研究所)

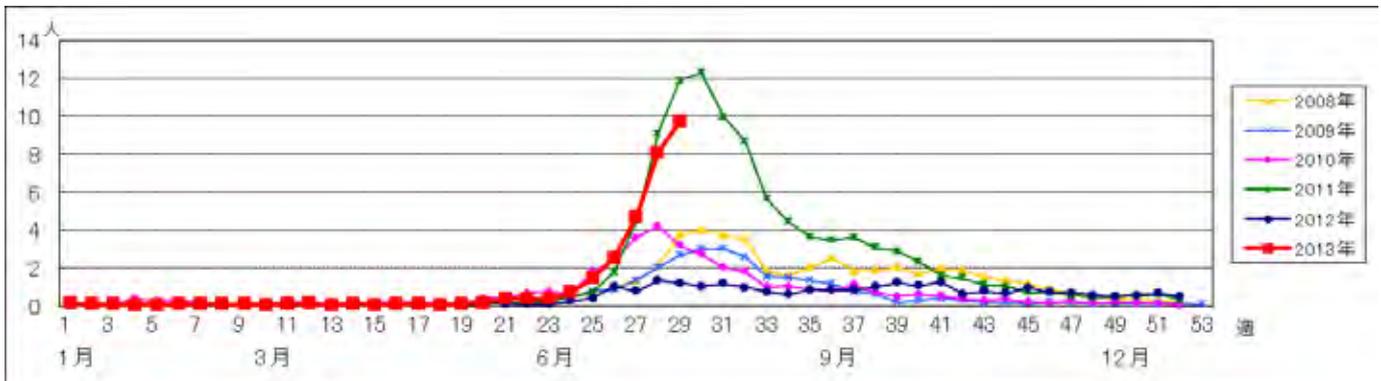
[横浜市の風しん予防接種助成の詳細](#)(保健所)



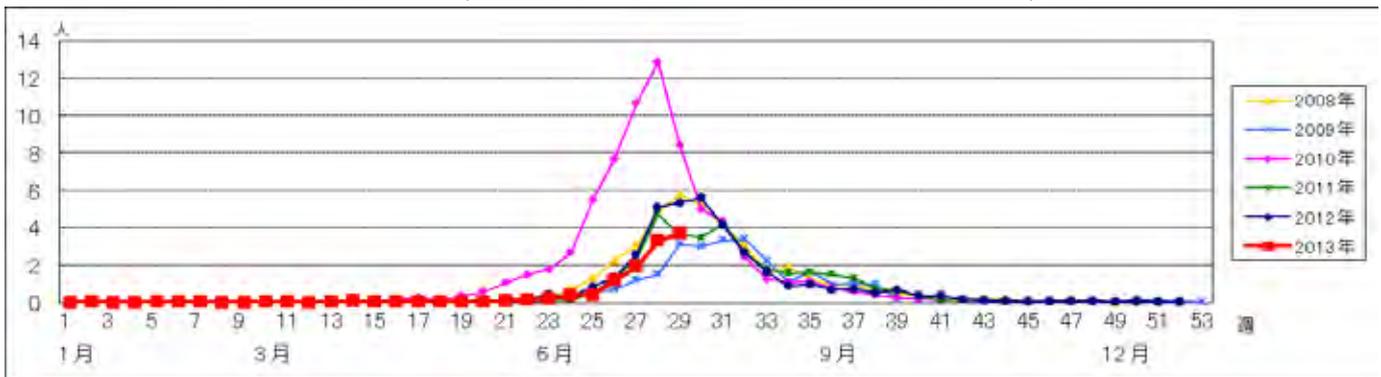
定点把握の対象

1 手足口病:第28週に市全体で定点あたり8.07と、警報レベル(警報発令基準値5.00)となりました。第29週は9.71とさらに増加しています。手足口病の原因ウイルスは、CA16やEV71が一般的ですが、今年は[全国でCA6が多く検出](#)されており、市内の病原体定点からもCA6が多く検出されています。CA6を病原とする手足口病は、水疱がかなり大きく、四肢末端に限局せずに広範囲に認められるといった[臨床的特徴](#)があり、罹患1~2か月後の爪甲脱落症も報告されています。感染経路は飛沫感染、接触感染、糞口感染であり、乳幼児における感染予防は手洗いの励行と排泄物の適正な処理が基本です。 [横浜市感染症臨時情報](#)(衛生研究所)

第26週	6月24~30日
第27週	7月1~7日
第28週	7月8~14日
第29週	7月15~21日



2 ヘルパンギーナ:市全体で第29週3.73と増加しています。区別では、栄区10.33、瀬谷区9.50、港南区7.40、緑区3.33と、4区で警報レベル(警報発令基準値6.00、警報解除基準値2.00)となっています。



- 3 性感染症:6月は、性器クラミジア感染症は男性が24件、女性が15件でした。性器ヘルペス感染症は男性が9件、女性が11件です。尖圭コンジローマは男性3件、女性が0件でした。淋菌感染症は男性が21件、女性が0件でした。
- 4 基幹定点週報:第27週に無菌性髄膜炎の報告が1件(6歳男児。発疹などの症状から近医にて手足口病の診断有り。その後発熱(40)し、髄膜刺激症状出現。病原体検索中。)ありました。マイコプラズマ肺炎では第26週1.00、第27週0.00、第28週0.00、第29週0.66と落ち着いています。細菌性髄膜炎、クラミジア肺炎の報告はありませんでした。
- 5 基幹定点月報:6月はメチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症9件が報告されました。ペニシリン耐性肺炎球菌感染症、薬剤耐性緑膿菌感染症、薬剤耐性アシネトバクター感染症の報告はありませんでした。

この報告とデータの詳細については、下記に掲載されていますので、ご参照ください。
 横浜市衛生研究所ホームページ URL:<http://www.city.yokohama.lg.jp/kenko/eiken/>